

あなたの行動が、周りの人の命を救います。 ～今、災害が起きたら～

2020年3月22日。ヨーロッパのクロアチアで「140年ぶり」とされる大きな地震が起きました。政府は「地震で大変な時だが、新型コロナウイルスの感染を防ぐために人との間隔は2メートル以上あけ、密集しないように」と呼びかけました。人々は地震と同時に見えないコロナウイルスの恐怖にさらされたのです。揺れから身を守りながら、冷静さを失わずにマスクをしたり、手を洗ったりして感染を予防するのはとても難しいことだったといいます。

地震はいつ起こるかわかりません。また長雨の季節が近づけば土砂災害・浸水の危険もあります。「災害に備えて、今何をすべきか。」環境防災科の生徒が考えました。

自分の命を守ること＝周りの命を守ること

あなたや、あなたの友達は、どこまで出来ていますか？

<☑チェック項目>

- 感染予防。外出を避け、規則正しい生活を送り、免疫力を保つ。
- 感染症への正しい対策(正しい手洗い、マスクの付け方)を知り、習慣づける。
- 正しい情報源を持ち、現状(感染状況や、災害の警戒レベル)を理解する。
- 過去の災害を学び、予備知識を持っておく。
(例)避難情報(警戒レベル)の意味を理解する・エコノミークラス症候群の予防方法
- どこでどんな災害が起きるのか(災害の想定)を把握する。
- ハザードマップを見て、安全な場所・危険な場所を頭にいれる。
- 災害が起きたらどうするか(どのタイミングで避難行動をとるか)、家族と話し合う。離れている家族とは電話やSNSでこまめに連絡をとり、孤立させないようにする。
- 避難場所や方法を検討し、それぞれのメリット・デメリットについて考える。

指定避難所／宿泊施設／親戚や友人の家／自宅避難危険区域から離れている頑丈な建物のみ)

／車中避難

- 自宅の安全点検(家具の固定、火災報知器や消火器の確認)を行う。
- 非常持ち出し袋や、食料・水の備蓄を確認する。余っているものはリサイクルや寄付にまわす。
- ライフラインが途絶えた時、物資が不足した時に役立つ知恵と技術を身につける。
(例)応急手当・心肺蘇生・簡易マスク・紙食器・新聞スリッパ・ビニール袋カッパ・毛布担架
・パッククッキング